

「東京ゲームショー 2018」

神谷 直亮

コンピュータエンターテインメント協会が主催した「東京ゲームショー 2018」が、9月20日から23日まで幕張メッセ（千葉市美浜区）で開催された。主催者の発表によれば、日本、米国、中国、韓国など41カ国・地域から668社・団体が出展し、事前に届け出のあったタイトル数は1,568に及んだ。総入場者数は、昨年の254,311人を大きく上回る298,690人に達した。

第22回を迎えた今回の会場には、「新たなステージ、開幕。」のスローガンが掲げられ、ソニー・インタラクティブ・エンターテインメント、KONAMI、スクウェア・エニックス、バンダイナムコ・エンターテインメント、セガゲームス、カプコンのビッグ6がメインとなる4～7ホールを支配していた。また、9～11ホールには、VR/ARコーナー、e-Sportsステージ、インディーゲームコーナーなどが設けられメインホールに劣らない熱気に満ち満ちていた。

本稿では、「新たなステージ」を象徴する仮想現実（VR）拡張現実（AR）とゲームの新しい文化を切り拓こうとしているe-Sportsについてレポートする。

今回、VR/ARコーナーに出展したのは、ASATEC、ジェイピーピーヴィアール（JPPVR）、講談社VRラボ、アイロック（IROC）、ハシラス、ビーライズ、シーエス

レポーターズなど31社・団体である。

ASATEC（東京・港区）は、ダーツ、ビリヤード、ボウリングに次ぐ次世代のシューティングスポーツとして「Vshooter」を紹介した。台湾のHTC社製「VIVE Pro」HMDと専用のコントローラーを使って、仮想空間でシューティングスピードと得点を競い合うスポーツだ。主な機器の構成は、55インチのモニター（2.1chスピーカー搭載）と専用のタッチパネルモニターで、55インチのモニターに現れる黄金的、瞬時に出現する10枚のパネル、ランダムに表示される数字などを打ち抜いて得点を競う。対戦できる人数を聞いて見たら「最大4人」との回答であった。タッチパネルモニターには、プレイ開始前に対戦シューターの名前を入力しておけば進行状況が分かり、終了時には各シューターの細かいシューティング結果が表示される。会員制にして運用すれば、日報管理や月報管理も可能なシステムという。ブースの担当者によれば、「販売開始の予定は2019年2月で、一式150万円で売りに出すつもり」とのことであった。

JPPVR（東京・中央区）は、7種のVRアミューズメント機をブースに並べて、来場者に体験を促していた。7種の中で最も人気を得ていたのは、「フォトン・カー」で、「フォトン・バイク」「タイム・サイクル」「シューティング・ゲーム」がこれに続いた。「リアルな操作性で、多彩なステージを疾走！」

をうたい文句にした「フォトン・カー」は、ハンドルの反応が実にリアルで、操作時の振動を両手で敏感に感じることができるのが特徴である。使用するヘッドマウントディスプレイ（HMD）のメーカーを聞いて見たら「中国の大朋（Deepoon）」との回答であった。スタイリッシュなフォルムを強調した「フォトン・バイク」は、HMDによる没入感に満ちた視覚情報とバイクの前部から吹き出す風から得られる快適感がウリである。「タイム・サイクル」は、高層ビルの間を自転車で駆け抜けるというハイテンションなVRを再現していた。感心させられたのは、プロ仕様のハンドルバーと特製のダンパーペダルを装備して仮想と現実の融合を図っていた。「シューティング・ゲーム」は、ガトリング銃を使って襲ってくるゾンビや敵機を迎え撃つ爽快なゲームだ。銃前部が音を立てて回転するガトリング砲の重量感とトリガーを引いた時の銃口の高速回転が臨場感を高めていた。

講談社とポリゴン・ピクチュアズが設立した講談社VRラボは、「みんなのハートを癒します！」をキーワードに掲げて「HopStepSing！」というタイトルのVRアイドルムービーを4種類披露していた。興味深かったのは、「Oculus Go」「HTC VIVE Focus」「Lenovo Mirage with Windows Mixed Reality」「Acer Beats with Windows Mixed Reality」の4種のHMDを揃えており、来場者が選べるようになっていた。

アイロック社は、ドライビングシミュレーター「T3R」とサムソンのHMD「Odyssey VR」を使うプロレーシングドライバーの臨場感にあふれる体験を促していた。「T3R」には、ベシックモデルとプロフェッショナルモデルがあり、前者は398万円、後者は498万円とのことであった。

ハシラス社は、乗馬ゲーム、トーヤ ラケット、オルタランド（ALTLAND）、ブラン



写真1 ASATEC社は、「Vshooter」と名付けたシューティングスポーツの試遊を促して注目を集めた。



写真2 JPPVR社が公開した7種のVRアミューズメント機の中で最も人気を得ていたのは、「フォトン・カー」であった。



写真3 ビーライズ社は、「STARVR」の試作品（解像度5K、視野角210度）を出展して関心と呼んだ。



写真4 今年初の「バズドラチャンピオンズカップ」には、9名のプロゲーマーが参戦し、賞金総額1000万円に挑んだ。



写真5 「日本対オランダeスポーツ国際親善マッチ」は、浦和レッドダイヤモンズとフェイエノールト・ロッテルダムが対戦した。

この4種のVRアトラクションを展開して人気を呼んだ。4人で馬上ゲームを競う乗馬VRは、同社のオリジナルとして知られているが、今回新しく4個のハンドコントローラを投げて得点を競うトータラケットを紹介して来場者の注目を集めていた。いずれもHTC VIVE ProをHMDとして使用するゲームである。

ビーライズ社は、まだ鋭意開発中というHMD「STARVR」の試作品を公開した。このHMDは、解像度が5Kで視野角が210度まで広がるということで、業界の注目を浴びている製品である。ブースでは、この試作のHMDによるVRライドマシンとVR歩行デバイスの体験の場が提供されており来場者が順番待ちの長い列を作っていた。実際に試す時間がなかったが、VRライドマシンは左右25度まで傾斜し、広々とした視野の高精細映像と相まって非常にスリリングなジェットコースターライドの体験ができるという。

シーエスレポーターズ社は、「Gugenka」というブランド名で今冬に発売予定という「このすば 快眠VR」の試遊を促していた。可愛い女性のインストラクターが仮想空間に登場して様々なヨガのポーズを取るのに合わせ運動をすることで快眠に導こうというのが狙いである。HMDには、「Lenovo Mirage Solo with Daydream」が使われていた。Mirage Soloは、Oculus GOと並ぶスタンドアロン型の新しいHMDである。

今回、「eSports X (クロス)」と名付けられた会場には、2つのステージ（ブルー・

ステージとレッド・ステージ）が設営され、「日本対オランダeスポーツ国際親善マッチ」「バズドラチャンピオンズカップ」「ウイニングイレブン2019」「鉄拳プロチャンピオンズシップ」など9つのタイトルで競技が行われた。

9月20日に開催された「日本対オランダeスポーツ国際親善マッチ」は、浦和レッドダイヤモンズとフェイエノールト・ロッテルダムの対戦という想定で試合が行われ、両国を代表する強豪選手が2人ずつ登壇してeSportsの魅力をかきまくる熱戦を繰り広げた。

今年初の「バズドラチャンピオンズカップ」には、9名のプロゲーマーが参戦し、賞金総額1000万円に挑んだ。決勝戦はリフレッシュ選手対ふれあい選手との戦いとなり、リフレッシュ選手が勝利した。

「ウイニングイレブン2019国内最強チーム決定戦」（3対3のチーム戦）の決勝戦は、カスタロミナンダバーチャットチームとユウQあるチームの戦いとなり、PK戦でカスタロミナンダバーチャットチームが勝利した。同チームは、2019年にサウジアラビアで開催予定の「日本・サウジアラビアeスポーツマッチ」に日本代表として出場する権利を獲得した。

久しぶりに上述した3タイトルの競技を観覧する機会

に恵まれたが、プロゲーマーによる熱のこもった競技とコメンテーターのムードを盛り上げる巧みな解説についてはまってしまった。

最後に、VRのプラットフォームとタイトルに関連して、事務局が下記のような興味深いデータを公表したので参考までに紹介する。やはり「HTC VIVE」に勢いが感じられる。

(プラットフォーム) (2018年のタイトル数) (2017年のタイトル数)

PS VR	9	13
Oculus Rift	30	29
HTC VIVE	55	44
Oculus Go/Gear VR	8	9
Windows MR	10	0
Daydream	4	0
その他	16	22

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト

SWE DISH

ニッサン新エルグランド4WD
5名定員
1.2m径・自動捕捉アンテナ搭載
車高2.2m以下(地下駐車場可)
3.6 KVA NMG アイドリング運用
水圧エコ・ボール4m 搭載
強化サスペンション
国内(100V)海外(240V)対応
IPコントロール
ハイビジョン映像伝送
運転席からワンマンオペレーション

SMART SNG
HD TV, 3D TV and IP OVER SATELLITE ECO OPERATION

スマート・サテライト・ニュース・ギャザリング

<http://www.bizsat.jp>

設計・製造・衛星通信のことなら
エーティコミュニケーションズ株式会社
TEL: 03-5772-9125

A Communications k.k.